

富山県におけるコモチシダの北限について

朝日町立朝日中学校 本瀬晴雄

はじめに

コモチシダ *Woodwardia orientalis* Swartz は、山麓・谷間・海岸などの斜面に生育する、特異な生態のシダである。昭和58年10月16日に筆者が現認していた生育地が、今までに富山県内の生育地として報告されている地点より更に北にあるので、62年12月12日に富山県生物学会の研究発表会（於県立富山中部高等学校）で発表した。以下にその概略を記す。筆者の至らぬところについて御批正と御指導を頂ければ幸いである。

1. コモチシダ *Woodwardia orientalis* Swartz の分類学上の位置

現在、最も多くの分類学者はコモチシダをシシガシラ科 *Blechnaceae* のコモチシダ属 *Woodwardia* Sm. に位置づけている。しかし、過去にはウラボシ科 *Polypodiaceae* として扱われてきており、今なお、図鑑などでそのような扱いをしているものも多い。

ウラボシ科は、その後、幾つかの科に分離された。その一例として、図表1と図表2を参照されたい。

2. 分布について

日本におけるコモチシダの分布については、文献によって表現のしかたに多少の違いがあるが、太平洋側では宮城県まで、日本海側では富山県までという点では一致している。

以下に幾つかの文献の記載を紹介する。

○新日本植物誌 シダ篇；中池敏之著 至文堂 S57年

本州（宮城県以西）、四国、九州及び中国、ヒマラヤ。

○原色日本羊歯植物図鑑；田川基二著 保育社 S56年

宮城県以南、富山県以西の本州の暖帯、四国、九州及び中国。

○日本のシダ植物図鑑5；企画 日本シダの会 編集 倉田 悟・中池敏之

東京大学出版会 1987年

日本、中国、インド。国内の分布は、前記二つの文献と同じ範囲で記載されている。

（図表3参照）

○改訂版 日本植生便覧；責任編集 宮脇 昭 至文堂 S58年

本州（宮城県以南）、四国、九州及び中国。

3. 富山県における分布

富山県のコモチシダの生育地として、日本のシダ植物図鑑5に記載されている地点は、上市町釈泉寺（大島哲夫、1982年）、立山町白岩川湯毘谷（大島哲夫、1984年）、氷見市中田（大島哲夫、1982年）、氷見市小境（小牧 旌、1980年）、氷見市阿尾（小牧 旌、1980年）の5つの地点である。

また、富山県植物誌；大田 弘・小路登一・長井真隆著では、上市町眼目、立山町六郎谷、氷見市藪田、小境、大境その他としている。

富山県では西へ行くほど生育量が多く、氷見市の海岸の崖面ではシダといえば先ずコモチシダを思い出すほどに多い。反対に、県東部では生育地点が点々と散在し、極く限られた場所しか見られない。

4. 朝日町元屋敷地内のコモチシダについて

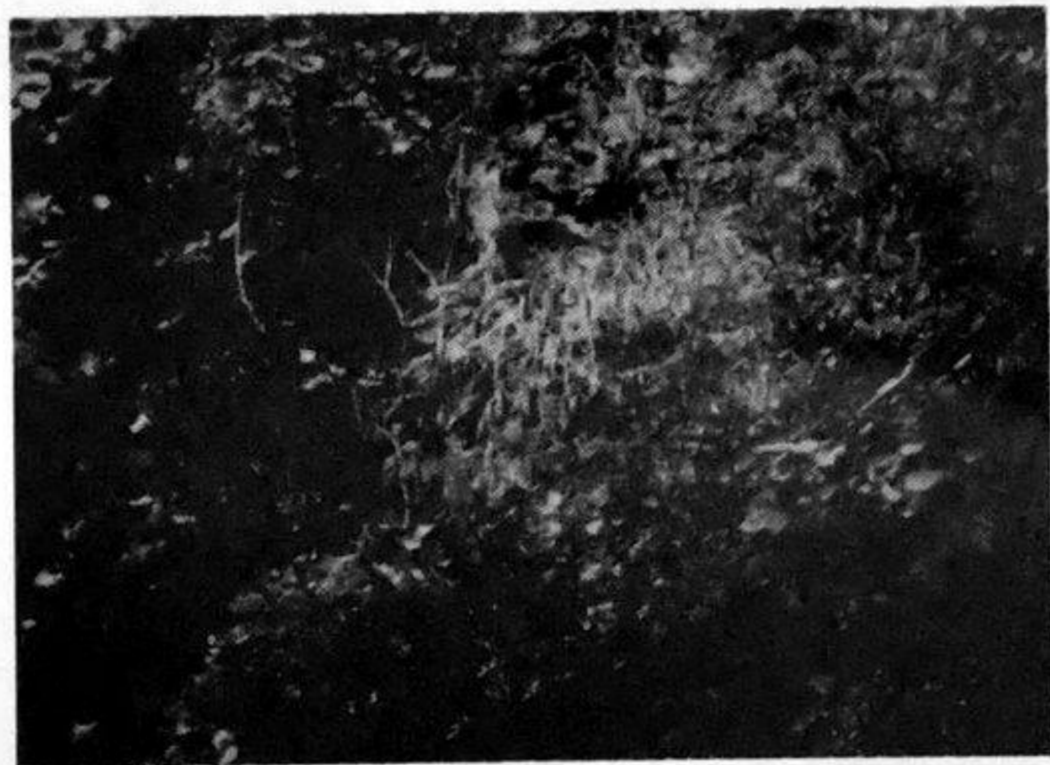
今回、筆者が新たに生育を現認した地点は、下新川郡朝日町元屋敷地内の海岸に面した海食崖で、標高50mから100mぐらいの所に生育している。標高50mぐらいの崖面の群落には、かろうじて接近して至近距離での写真撮影と標本の採取ができたが、標高100mの高所の群落には、下から登はんして接近することは不可能である。

朝日町のコモチシダは、日本のシダ植物図鑑5の分布図はもとより、朝日町誌自然編の朝日町の植物目録にも記載されていない。従って、今回みつかった元屋敷地内のコモチシダの生育地は、初めて報告される生育地であり、また、富山県の最も北の生育地でもある。（図表4参照）

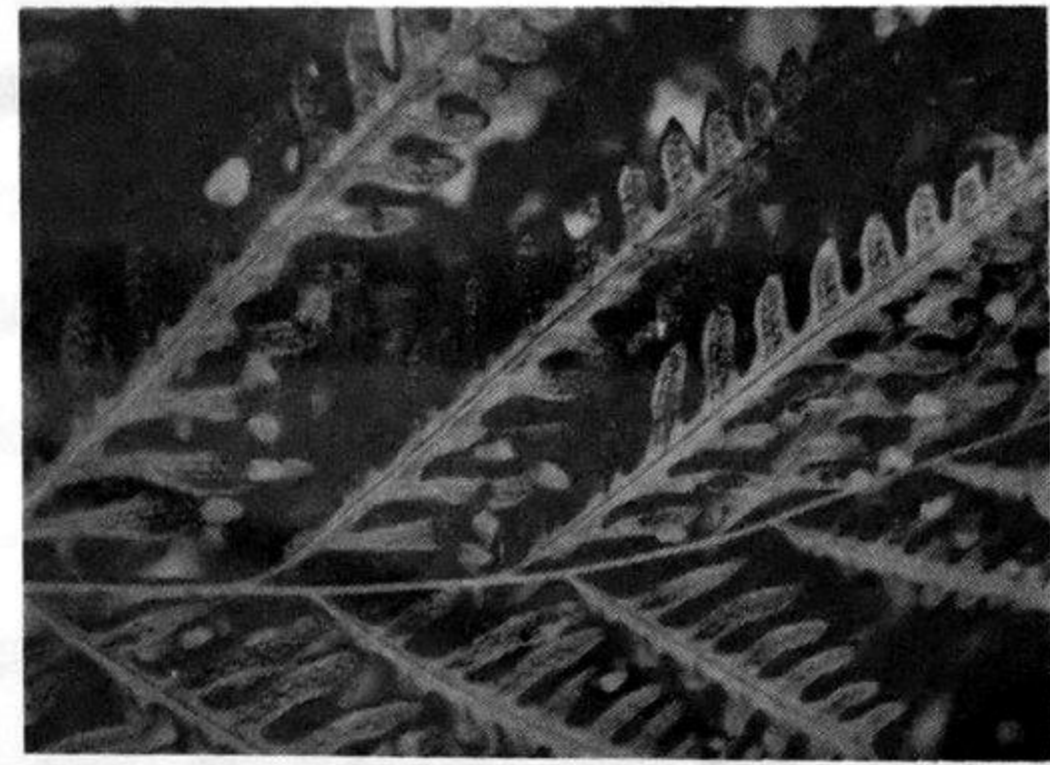
また、現時点では、富山県以北の日本海沿岸で、最も北の生育地であると思われる。



標高50m地点のコモチシダの群落



標高50mの地点のコモチシダ生育崖面
(崖の下部は、ほぼ垂直にきり立っている。)



標高50m地点で採取したコマチシダの生鮮標本



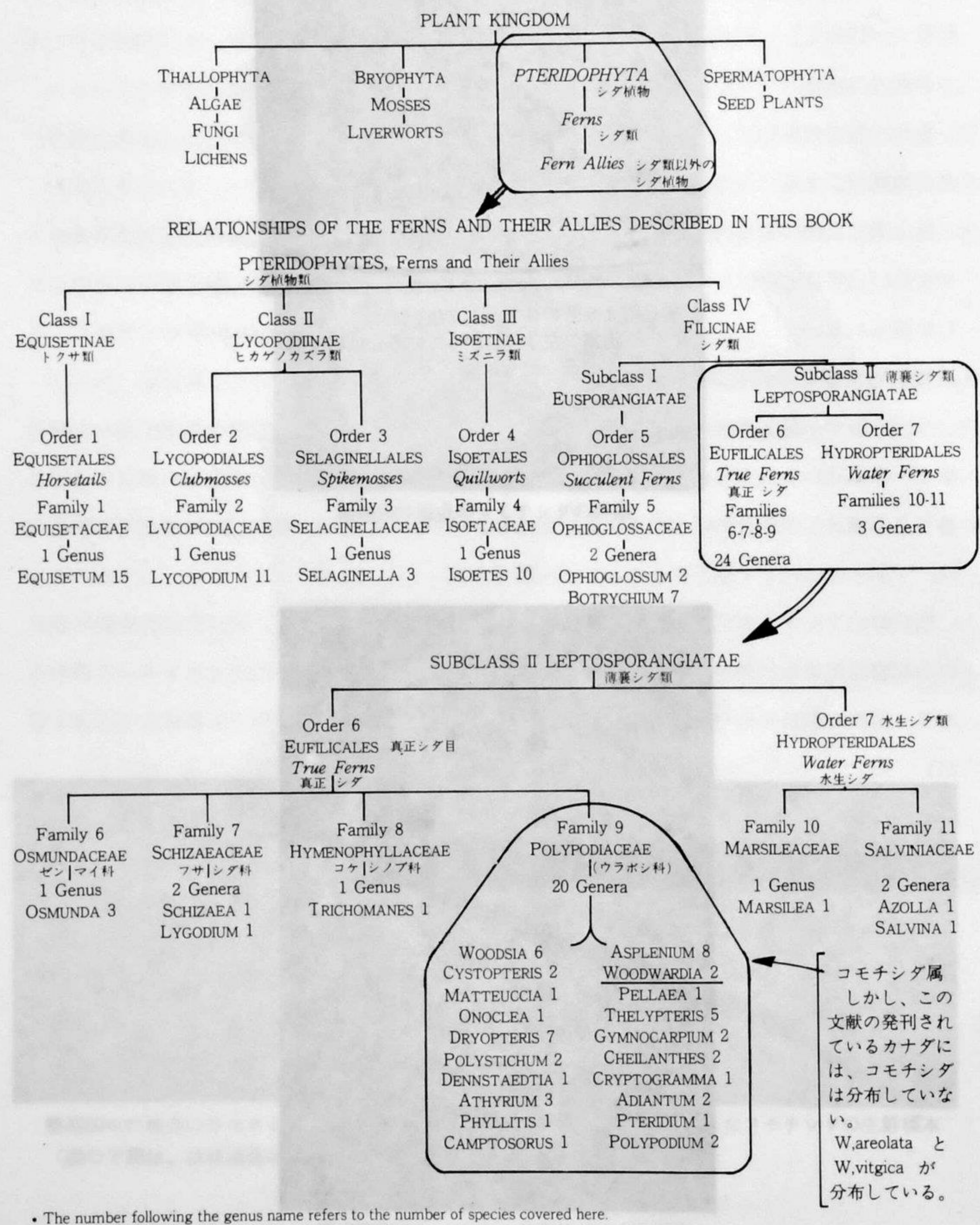
朝日町元屋敷のコモチシダ生育崖面
(道路の左手に広がっているのは富山湾)



標高100mの地点のコモチシダの生育崖面
(下から登はんして近づくことは不可能である。)

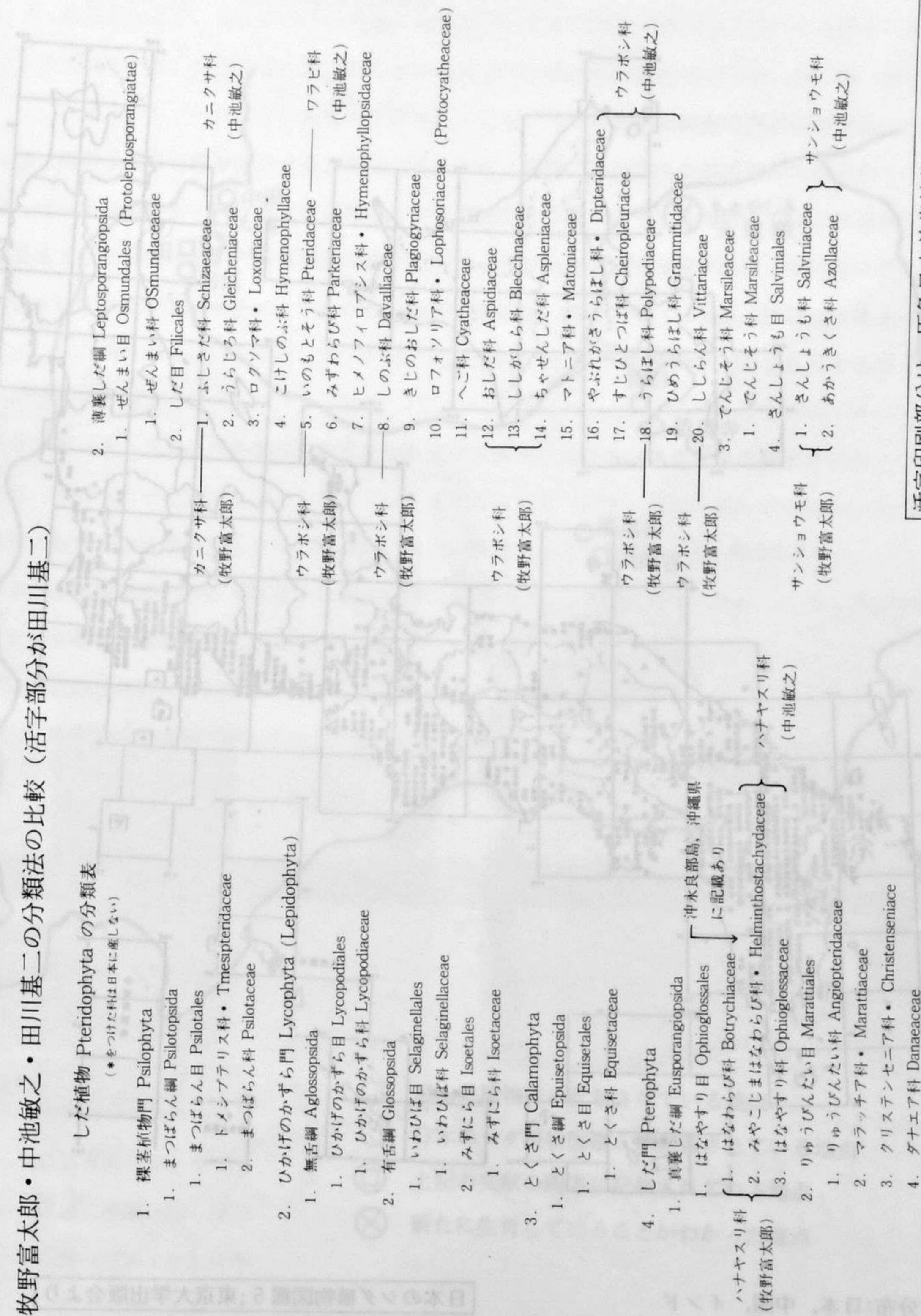
図表 1

カナダで購入した文献のシダ植物の分類

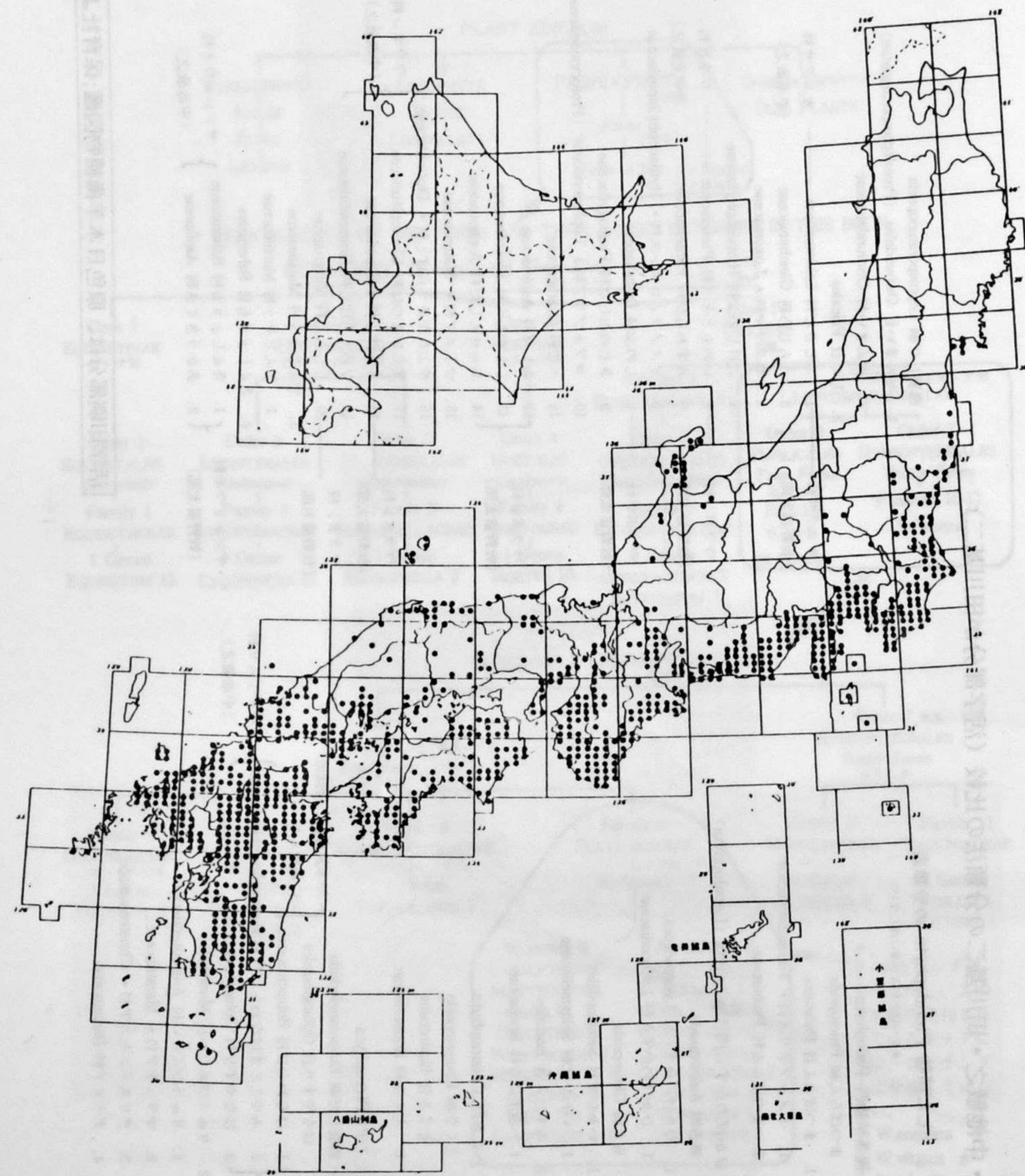


A FIELD GUIDE TO THE FERNS
BOUGHTON COBB; HOUGHTON MIFFLIN COMPANYより

図表 2



図表3 コモチシダ
Woodwardia orientalis Sw.



分布:日本, 中国, インド

日本のシダ植物図鑑5; 東京大学出版会より

図表4 文献に記載されている富山県内のコモチシダ生育地点



- 富山県植物誌に記載されている地点
- 日本のシダ植物図鑑5に記載されている地点
- ◻ 上記の文献の両方に記載されている地点
- ⊗ 新たに生育していることがわかった地点